

「第33回 介護老人保健施設全国大会 兵庫」に参加して

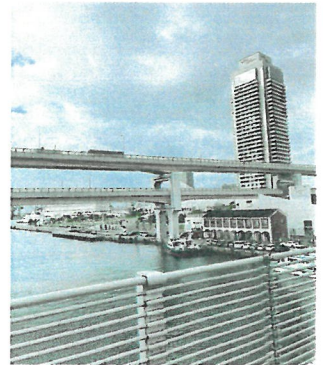
介護老人保健施設 越南苑 看護部長 若井 由紀子

新潟県介護老人保健施設協会の役員の皆様をはじめ、会員の皆様にはご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

令和2年から日本国内で新型コロナウイルス感染症の一例目が報告されて3年目となり11月15日全国の新たな感染者数は10万人を超え日本医師会では第8波に入ったとの認識を示され、今もなお多くのコロナ感染者が確認されており、どこの施設におかれましても緊張感が続く毎日であると拝察しております。

平穏な日々に戻るまでには、もう少し時間を要しそうではありますが、現状の中で出来る事を考え、工夫しながら皆で協力し継続してサービスが行えるよう努めて参りたいと思います。

この度、コロナ禍の第7波がようやく落ち着いてきた間を縫うように、2022年9月22日・23日に3年ぶりの全国介護老人保健施設大会が兵庫県神戸市にて開催されました。大会のテーマは、「新たな時代をいきぬくために～今、老健ができること～」です。大会初のオンライン配信でも参加できるハイブリッド方式の新しいスタイルで行われました。会場参加は神戸ポートピアホテルと神戸国際会場の2場所で行われました。当施設は会場での参加をさせていただきました。当施設において2022年2月26日、第6波時に認知症専門棟で初めて新型コロナウイルスが発症し、施設内療養でのクラスター発生時の対応と振り返りを行った取り組みについて全国大会で発表させていただいたので紹介させていただきます。



大会では最新機器の展示も見ることができ、他の施設の発表から多くの学びを得ることができました。越南苑では、来年度はリハビリスタッフが参加の計画を立てています。施設の活性化に繋がっていただければと思っています。

※特集②へ続く (5ページへ)

(第33回全国大会発表演題より)

「認知症専門棟による新型コロナウイルスクラスター発生」 ～施設内療養を振り返って～

介護老人保健施設 越南苑

<はじめに>

2022年2月26日に当施設の認知症専門棟で初めての新型コロナウイルスが発症した。施設内療養でのクラスター発生を振り返り、感染拡大を最小限に留める為、初動対応の体制を再考したことを報告する。

当施設は、新潟県の南部の魚沼盆地に位置する南魚沼市、南魚沼産コシヒカリ米の産地にある。

当施設越南苑は、南魚沼市唯一の介護老人保健施設で超強化型を取得している。入所数は認知症専門棟2棟98床、一般棟2棟102床で総数200床である。長期、短期、ミドルの受け入れを行っている。

<経過と対応>

2月26日に認知症専門棟の1棟で入所者1名が発熱し、簡易抗原検査の結果陽性であった。保健所の指示で、入所者50名とスタッフ38名のPCR検査を行った。結果、入所者3名とスタッフ1名が陽性となり、合計5名となった為クラスター認定され、施設内療養で感染対応を行った。

入所者は普段、ホールの共有スペースで過ごされているが、感染対策の為、まず居室経過を促した。しかし、すぐに居室から出てきて歩き回ったり、マスクをしても外してしまったりで、居室経過をしていただくことが大変困難であった。またスタッフは防護衣（PPE）をつけながらの業務で清潔不潔の区別に現場は混乱した。そして、発症から2日目の28日には新たに3名の陽性者が発症した。このままでは感染拡大の恐れが考えられた為、県に感染管理認定看護師の派遣を依頼し、感染対応について確認を行った。その時、ホールに入所者が多くおられることに交差感染のリスクを懸念され、「業務の縮小を視野に入れ、人も、ものもゾーニングの検討が必要である」と判断され、ご指導のもとゾーニングの見直しを速やかに行った。そして、他部署からの応援態勢を整えた結果、4日目にして、全入所者の居室経過をすることができ、汚染区域だけでなく、居室に入る担当をレッドとし、物品を取る人渡す人をグリーンとして、人もゾーニングし対応することができた。さらに交差感染リスクを軽減するため、物品や配膳を置いたりする場所を確保しテーブル上で視覚的にゾーン分けすることによって、清潔不潔がわかりやすくなってケアもやりやすく交差感染のリスクも軽減することができた。最終的には、50名中の9名が陽性となったが、3月19日解除指示宣言にて3週間で収束となった。

<まとめ>

初動が感染拡大防止の要と考える。その為には、①早期に入所者を居室経過とする。②交差感染を防ぐため、人やものをゾーニングすることが大切である。③事前に具体的な応援体制の準備を整え、どここの部署がどんな役割をするか、内容を具体的に整理し、応援を要請した時、スムーズに行動が出来るようにしておくことが必要である。その為、事前準備の細かい業務内容や分担についてリスト化した。

また、感染発生時に人員を減らさない為にも、まずはスタッフ自身が感染しないように対応することも大切である。

最後に、感染対応は、普段以上に業務量が増える中で、入所者のケアも続けていかなければならない。その為にも、ウイルスの特徴¹⁾を理解し私たちが汚染した手で、自身が感染したり、感染の拡大をさせることのないように、普段からの標準予防策を徹底して行きたい。

参考：1) <https://www.mod.go.jp/gsd/moe/images/korona-kyuiku.pdf>

以上が発表内容です。質問については下記の内容がありました。

Q：応援要員はどのように集めたか？

A：組織的応援体制の整備を行い整えた。

Q：認定看護師はどこに依頼し、どこから来ていただいたのか？

A：管轄の保健所に依頼し、地域の病院におられる感染管理認定看護師1名にきていただき巡回して気づいた点の指摘や悩む点等の質問を受けていただいて2時間程度ご指導いただいた。

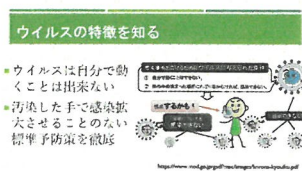
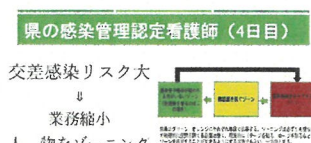
Q：治療はどのようなことが行われたか？医師は施設の医師か？

A：施設の医師からご家族に内服ラゲブリオの服用についての説明と同意を得たのち発症者に服用していただいた。他、食事が低下されたご利用者は点滴、酸素化が低下された方には酸素療法等の治療を行った。

Q：認知症の方の居室対応は簡単ではないと思うが、どういった点に苦慮されたか？

A：ADLが低下しないよう、各居室にテーブル等を設置して都度立位を促したり、座位保持していただく等の対応や、どうしても落ち着かず居室の外に出たい方は、陽性者以外の方では、マスクを着用し誰が発症するかわからない為、濃厚接触にならない時間の範囲で居室外を歩き回ってから再度居室へと戻っていただいたりしてケアに当たった。その際、手で触れた環境は消毒を行った。

認知症専門棟による新型コロナウイルスクラスター発生
～施設内搬送を振り返って～




コロナ禍の全国大会であり、同じセクションでは当日にキャンセルとなった施設があると報告がありました。一日も早く、平穏な日常が取り戻せるよう心がらせております

研修会報告

認知症リスクマネジメント研修会

今年度はじめての当協会主催の研修会として、認知症ケアにおけるリスクマネジメント研修会が行われました。本研修は、東京海上日動ベターライフサービス株式会社の泉洋枝先生を講師としてお招きし、オンラインにて24施設35名が参加しての開催となりました。

開催日：令和4年8月31日
参加施設：24施設
参加者：35名

認知症の基本の再確認や根拠に基づくケアを学びました。また「水分、食事、排便、運動」の4つのケアを適切に行うことで、症状改善につながる可能性があるとのことでした。

オンラインでしたが、講義のポイントごとに講師からの質問にアンケートで答える形式にて参加型の研修でした。アンケートの内容も数値として現れ、参加者全体の考えもわかり、より理解が深まるものとなりました。



受講風景（やすらぎ園）



講師の泉 洋枝先生